



## 美和神社境内摂社 桐生西宮神社

美和神社境内にある摂社桐生西宮神社は、兵庫県西宮市のえびす宮総本社西宮本社の直系分社として、明治34年(1901)11月20日に分霊勧請された。境内摂社の一つであるが、社殿・手水舎・参道は、美和神社のものより規模が大きい。社殿は明治38年(1905)に落成した。

御祭神は、蛭子大神(ひるこおおかみ)で、美和神社の聖地に、相殿神として奉詔遷座された。式内社美和神社の御祭神は大物主命で、別称大国主命(大黒)という。相殿神とは、美和神社の同格主祭神であることから、毎年11月19日・20日の例祭・彘びす講は、恵比須・大黒の二大福神が揃った祭であるといえる。各地に、彘びす神が存在するが、多くは、御祭神に事代主命、もしくは大国主命を祀っており、彘びす神と称する、真の福の神・蛭子大神の御分霊を祀る神社は、関東で桐生西宮神社一社である。「関東一社」の称号を冠した、桐生彘びす講は、確かな御神徳とともに、関東一の賑わいを見せている。

神社付近は、背後に桐生が岡公園が広がり、松、杉、大ケヤキ、桜などの巨木群が鎮守の森を形成している。近年、石段を利用して着物のファッションショーが開かれるなど、新しい動きも見せている。

所在地 桐生市宮本町2-1-1  
宮 司 前原 勝